



平成22年12月発行
 厚木市立毛利台小学校
 児童779名
 電話 046-247-9351
 発行責任者 利根川千鶴弥

皇帝ダリアとサンタさん

校長 利根川千鶴弥

師走となりました。ノロウィルスやインフルエンザ等の流行が気になるころですが、教職員は今年の教育活動のまとめと来年の諸準備に、文字どおり気ぜわしい日々を過ごしております。寒さと乾燥の時期に向かい、保護者の皆様、地域の皆様にも一層のご自愛をお願い申し上げます。

先日、朝会で子供たちに紹介した季節の花に皇帝ダリアがあります。高さが3メートルを超え、その先にうすいムラサキの大きな花を付けるので、2階から眺めるのにちょうどいい花です。南国原産の大型ダリアだそうで、広まったのはこの数年のことと思います。私がこの花を知ったのは、ちょうど10年前です。伊勢原駅近くの線路近くにあり、通勤電車から眺めていました。当時、冬枯れの中に大きなムラサキ色の花がいくつもあるのが不自然に思え、クリスマス飾りの造花だと思っていました。寒空には似合わない飾り花に見え、失礼ながら趣味が悪い飾りだなと思っていました。

それが、その年の12月25日の朝、いつものように電車から眺めていて驚きました。その花が霜で枯れているのです。「あっ、本物だ。」と分かったのです。その年のクリスマスイブは冷え込んで、朝には霜が下りたたため、それまで大きく咲き誇っていたのが、一気に様変わりしたのです。クリスマスの朝であったので、サンタさんが、「この花は、本物だよ。」と教えてくれたのかなと思いました。

この10年の間に、皇帝ダリアはあちこちで見られるようになりました。大きい花ですから、畑などに植えられ、12月を華やかに飾る花です。11月から咲き続けますが、その後は霜と寒さに痛んで、クリスマスの頃に終わってしまいます。私は、サンタさんを待つ時期に咲く花と思っています。

さて、毛利台小の登校時、子供たちにあいさつをしながら、「サンタさんは来てくれるの？」とたずねると、「来てくれる！」と元気な答えが返ってきました。うれしいことです。サンタさんを待つ12月は、子供たちには楽しい夢がふくらむ季節です。サンタさんをお願いする内容は、時代や世代とともに変わりますが、サンタさんに夢を託す人の気持ちは不変のようです。1年の最後の月に、自分の一番の願いをもって、日々を過ごす喜びを大切にしたいものです。多くの子供たちに、わくわくしながら夢を抱く12月を過ごし、そして元気に新年を迎えてほしいと願います。私も、今年はどうな教えがあるかなと、サンタさんへの期待に思いをめぐらせながら、電車から10年間咲き続ける皇帝ダリアを眺めています。

5年生の活動を紹介します

5年生の2学期の活動です。いろいろな方面から、講師の方々を招いての活動が多くありました。経験豊かなお米屋さん、車作りのプロの日産の技術スタッフの方々、国語の方言の授業では、地域の方をお招きしました。また、保健の授業では、地域にお住まいの看護師の方々から、生命の大切さとともに不思議さも学びました。

お米マイスター



日産ワクワクスタジオ



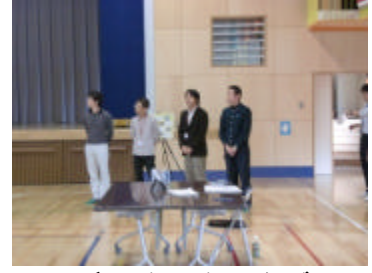
方言と共通語



日野自動車工場見学



日産ワクワクスタジオ



日産ワクワクスタジオ



生命の不思議



日野自動車工場見学



日産ワクワクスタジオ



生命の不思議



バケツ稲作り



